



すわっ子だより

学校教育目標 とともに伸びる子
かしこく ゆたかに たくましく
令和5年8月29日(火)
第6号 発行責任者 渋谷 恵子
在籍児童数145名
<http://higashiwatsuki-e.saitama-city.ed.jp>

熱量

校長 渋谷 恵子

2023年7月は、「観測史上最も暑い月」になる。これは7月27日に世界気象機関(WMO)が示したもので、同日に国連のグテーレス事務総長が記者会見で「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰の時代(the era of global boiling)が来た。」と述べたということも報道されました。そんな暑い夏でしたが、それに負けない熱量を感じた出来事がありました。

一つ目は、7月24日から28日までの5日間に本校で開催された「夏休み宿題教室」。これは、東岩槻地区社会福祉協議会と桜山中・東岩槻小学校の学校運営協議会との共催で実施したもので、参加児童は本校児童の1/3弱にあたる43名。対してかかわっていただいた学生、保護者・地域ボランティアの皆様は、参加児童の数を上回る59名(1日平均30名程度)。児童たちは午前中の約1時間半、夏休みの宿題(ワークやドリル、絵画・工作・書道など)や1学期の復習などに取り組みました。そして最終日。児童の活動終了後にボランティアの皆様による振り返りが行われましたが、その時のボランティアの皆様の熱量がすごい。5日の間に起こった様々なエピソードを基に、児童へのかかわり方やこの取組についてご自身の思いやお考え、次回への期待や改善点などお一人お一人がお話をしてくださいました。そのお話を伺いながら、本校の児童に向ける熱い思いとともに、見守り支えてくださるサポーターの輪が広がりつつあることを感じ、大変嬉しく、また心強く思ったところです。

二つ目は7月30日、私自身が参加した「岩槻の歴史を学ぼう」という研修会。これは、退職された校長先生方が企画された研修会で、岩槻の歴史について紙芝居の上演を通して学ぶというものでした。講師は、岩槻紙芝居の会の方々ですが、実はこの紙芝居の制作をされているのが西原小学校、岩槻中学校で校長先生としてお勤めになられ、平成元年～8年まで旧岩槻市において教育長をされた内田 茂先生です。内田先生は、退職後に紙芝居制作を始められ、学校等に出向かれて子どもたちに紙芝居を上演し、郷土愛や情操を育ててこられたそうです。研修会では紙芝居上演に加え内田先生によるご講演もあり、岩槻の歴史について丁寧な調査活動に基づいた詳細な解説や郷土や子どもたちへの愛情に溢れた紙芝居制作への思い等について、力強く魂のこもった語り口調に圧倒されました。いつまでも変わらぬ情熱をもち続けるという内田先生の熱量に触れ、激励された思いがしています。

三つ目は8月25日、本年度10回目の開催となった「いじめ防止シンポジウム」。この取組は、さいたま市立学校の児童生徒代表、大学生、教職員、保護者、地域団体、関係行政機関が一堂に会し、市を挙げていじめ防止に向けた取組やいじめを起させない、見逃さない環境づくりについて考えるものです。当日は、8月4日に実施された「さいたま市子ども会議」で話し合われた「心を元気にする4つの言葉」の報告がありましたが、子ども会議の前段として、各学校、中学校区において同様の話し合いが実施されており、さいたま市10万人の子どもたちの意見が集約されたものとなっています。本校からも6年生の児童2名が子ども会議とシンポジウムに参加し、立派に代表としての役割を果たしていました。子どもたちの熱量が込められた「心を元気にする4つの言葉」が、今後さいたま市全体を元気にする源となって広く使われるよう、本校でも活用していきたいと思えます。

そして間違いなく私たちのもつ熱量は、地球規模の課題である気候変動を解決するために、「自分事として捉え、考え、行動する」ことに向けるべきなのでしょう。

本日から2学期が始まります。教職員一同、これまで同様にこの暑さと出来事に負けない熱量で、2学期の教育活動を推進してまいりたいと思えます。引き続き保護者・地域の皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

「明日(あす)も進むいのちの日」 9月30日(土)

さいたま市教育委員会では、毎年9月30日を「明日(あす)も進むいのちの日」と制定し、全ての市立学校において、AEDの一斉点検及び児童生徒へAEDの設置場所等の確認を行い、学校安全管理体制の充実を図っています。